

<p>平成 22 年 12 月 21 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>1 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

<p>・ 今月の予報</p> <p>【注意すべき病害虫】</p> <p>    促成ピーマン：うどんこ病 ..... 1</p> <p>【その他の病害虫】 ..... 1</p> <p>    イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ</p> <p>・ 病害虫ミニ情報</p> <p>    平成 23 年版果樹等病害虫参考防除例の改正点について ..... 2</p> <p>・ 今月の気象予報 ..... 4</p>	
<p>最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p style="text-align: center;">茨城県病害虫防除所      Tel :029-227-2445</p> <p style="text-align: center;">予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;">ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</a></p>	

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

12月中旬現在，発病度，発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

罹病部は新たな伝染源となるため，発病葉はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	ハダニ類	発生量：やや多い	12月中旬現在，被害葉率は平年よりやや高い。
促成ピーマン	斑点病	発生量：平年並 ～やや多い	12月中旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成トマト	ハモグリバエ類	発生量：平年並 ～やや多い	12月中旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成キュウリ	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	12月中旬現在，平年よりやや多い発生である。

## 平成 23 年版果樹等病害虫参考防除例の改正点について

参考防除例は、主要な病害虫の発生生態および平年の発生状況に基づき、薬剤耐性・抵抗性の回避などを考慮し、効果的な防除時期と薬剤を選定して示しています。一方で、過度の農薬散布を防ぎ、周辺作物へ農薬が飛散するリスクを下げるためにも、スケジュール散布は避ける必要があります。そこで、参考防除例の活用にあたっては、環境にやさしい防除技術を導入した上で、病害虫防除所の発生予察情報や自分の圃場における病害虫の発生状況を十分確認して、必要に応じて農薬による防除を行うようにしましょう。

参考防除例の作物ごとの主な改正点は以下のとおりです。なお、改正のあった箇所については、特に注意して防除にあたって下さい。

### 赤ナシ無袋栽培・ハウスナシ・ナシ病害虫防除回数削減のトライ事例

- ・5月中旬（赤ナシ無袋栽培）、5月上旬（ハウスナシ）、5月上～中旬（トライ事例）：より高い黒星病防除効果が期待できるため、ベルコートフロアブルをユニックスZ水和剤に変更しました。
- ・秋季防除（赤ナシ無袋栽培、ハウスナシ）：ルビトックス乳剤は流通が少なく、また休眠期や翌春の防除を徹底することで、秋季のダニ剤散布は削減が可能であると考えられたため、秋季防除のルビトックス乳剤を削除しました。

### 露地巨峰

- ・小豆粒大期：オンリーワンフロアブルの適用拡大に伴い、重要病害である褐斑病を対象病害虫に追加しました。

### 雨よけ巨峰

- ・落花後：オンリーワンフロアブルの適用拡大に伴い、重要病害である褐斑病を対象病害虫に追加しました。
- ・べと病防除のためのランマンフロアブル散布時期が、袋かけ直前（7月上～中旬）となっていました。通常袋かけ直前は果実が汚れやすく薬剤散布は控えることと、7月中旬では散布間隔が空いてしまうことから、7月上旬に変更しました。

### カキ

- ・大きな変更点はありません。

### クリ

- ・農薬の有効成分M E Pの総使用回数が『4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）』に変更になりました。このため、ガットサイドSを休眠期に樹幹処理した場合は、平成23年6月下旬～7月上旬にトラサイドA乳剤を樹幹部に散布することはできませんので、十分注意して下さい。

## ウメ

- ・8月下旬：コスカシバが問題となっている産地で、落葉後にガットキラー乳剤またはラビキラー乳剤を使用できるよう、スミチオン乳剤を削除しました（これら3薬剤に含まれる有効成分MEPの総使用回数が2回以内であるため）。

## リンゴ

- ・発芽1週間前：マシン油乳剤97は農薬種類名であったため、リンゴで流通の多いハーベストオイルの商品名で記載することに変更しましたが、薬剤の変更ではありません。
- ・落花直後：黒点病等の防除を強化するねらいと、薬剤の取り扱いがより容易になることから、ブローダ水和剤をスコアMZ水和剤に変更しました。

## チャ（図を参照）

- ・二番茶摘採後：この時期のカンザワハダニ防除は重要性が低いため、ダニトロンフロアブルを削除しました。また防除を強化するねらいから、パダンSG水溶剤をアドマイヤー水和剤に変更しました。
- ・夏芽生育期：チャノミドリヒメヨコバイ等に加え、ホコリダニにも防除効果があることから、アドマイヤー水和剤をハチハチフロアブルに変更しました。
- ・秋芽生育期：防除を強化するねらいと、薬剤費が軽減されることから、モスピラン水溶剤をバリアード顆粒水和剤に変更しました。
- ・秋芽生育停止期：防除を強化するねらいと、薬剤費が軽減されることから、マイトコーネフロアブルをダニサラバフロアブルに変更しました。

平成22年版

時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 名
二番茶摘採後 (7月上~下旬)	カンザワハダニ	ダニトロンフロアブル
	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ チャノホソガ	パダンSG水溶剤
	チャノホソガ チャノコカクモンハマキ チャハマキ	カスケード乳剤
	輪 斑 炭 疽 も ち 病 病	アミスター20フロアブル
夏芽生育期 (8月上~下旬)	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	アドマイヤー水和剤
	チャノホソガ チャノコカクモンハマキ チャハマキ	ファルコンフロアブル
	炭 疽 も ち 病	ダコニール1000
秋芽生育期 (9月上~下旬)	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ チャノホソガ	モスピラン水溶剤
	炭 疽 も ち 病 網 梢 枯 死 病 病 症	オンリーワンフロアブル
秋芽生育停止期 (10月中旬)	チャノコカクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ	エンセダン乳剤
	カンザワハダニ	マイトコーネフロアブル

平成23年版

時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 名
二番茶摘採後 (7月上~下旬)	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	アドマイヤー水和剤
	チャノホソガ チャノコカクモンハマキ チャハマキ	カスケード乳剤
	輪 斑 炭 疽 も ち 病 病	アミスター20フロアブル
	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ チャノホコリダニ	ハチハチフロアブル
夏芽生育期 (8月上~下旬)	チャノホソガ チャノコカクモンハマキ チャハマキ	ファルコンフロアブル
	炭 疽 も ち 病	ダコニール1000
	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ チャノホソガ	バリアード顆粒水和剤
秋芽生育期 (9月上~下旬)	炭 疽 も ち 病 網 梢 枯 死 病 病 症	オンリーワンフロアブル
	チャノコカクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ	エンセダン乳剤
秋芽生育停止期 (10月中旬)	カンザワハダニ	ダニサラバフロアブル

図 チャ病虫害参考防除例変更点

記載された平成23年版の農薬の登録内容は、平成22年11月1日現在のものです。

## ・ 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 12月18日から1月17日)

気象庁(12月17日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[ 概要 ]

天気は, 平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

< 1週目の予報 > 12月18日(土曜日)から12月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

< 2週目の予報 > 12月25日(土曜日)から12月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率40%

< 3週目から4週目の予報 > 1月1日(土曜日)から1月14日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。

## 平成 22 年度 農薬適正使用アドバイザー 認定研修受講者 募集中

現在、平成 22 年度認定の農薬適正使用アドバイザー資格取得希望者を募集しています。

農薬適正使用アドバイザーとは、農薬の適正な使用について一定の知識を持った、県が認定する「農薬使用の助言者」です。詳細は研修・試験実施計画及び育成要綱をご確認下さい。研修・試験実施計画及び育成要綱は、茨城県農産課エコ農業ホームページ(<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/nosan/kankyo/>)の農薬のページまたは茨城県病害虫防除所ホームページ(<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>)からご覧いただけます。

対象者 満 20 歳以上で、茨城県内で農薬取扱業務（使用，販売等）に従事する者等

受付期間 平成 23 年 1 月 11 日（火）必着

認定研修 平成 23 年 1 月 24 日（月），25 日（火） 2 日間

認定試験 平成 23 年 2 月 4 日（金） 半日

- 研修・試験についての問い合わせ先 -

茨城県農林水産部農産課エコ農業推進担当

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978-6

電話029-301-1111（内線）3931